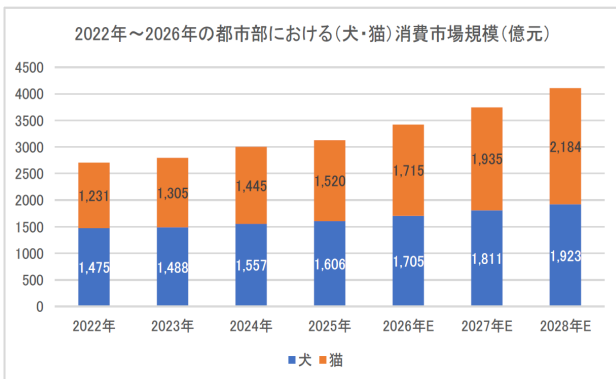


深圳レポート

中国の「ペット経済」、広大なブルーオーシャン

ペット経済とは、ペットを中核とし、そのライフサイクル全体にわたるニーズに基づいて構築された産業体系であり、食品、用品、医療、サービス、テクノロジーなどの分野を網羅している。その本質は、感情に基づく消費の産業化にある。人口構造の変化、都市化の進展、そして感情に基づく消費の高度化に伴い、中国のペット経済は新たな消費分野における中核的な成長エンジンとして台頭している。

「2026年中国ペット産業白書」によると、2025年の中国の都市部におけるペット(犬・猫)消費市場は着実に成長し、市場規模は3,126億元に達し、前年比4.1%増。そのうち、犬の消費市場は1,606億元に達し、前年比3.2%増、1頭あたりの年間平均消費額は3,006円で前年比1.5%増となり、猫の消費市場は1,520億元に達し、前年比5.2%増、1頭あたりの年間平均消費額は2,085円で前年比3.2%増となっている。



市場構造: 多様化と消費の特徴

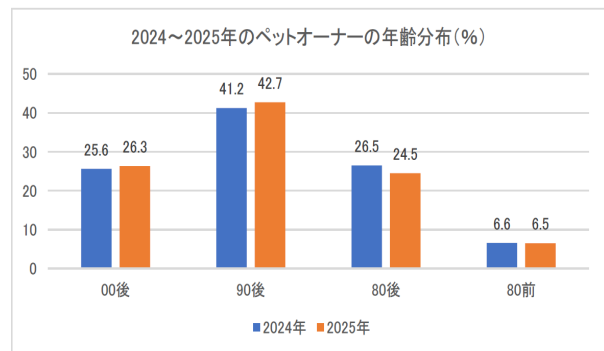
- 犬と猫が依然として主流だが、エキゾチックペットが急速に台頭

2025年、都市部における飼い犬・猫の数は1億2,600万頭に達し、前年比1.8%増となっている。そのうち、飼い犬は5,343万頭(前年比1.6%増)、飼い猫は7,289万頭(前年比1.9%増)である。

一方、エキゾチックペットのカテゴリーは急速に台頭しており、2025年にはエキゾチックペットの飼育者数は1,700万人を超える見込みである。市場規模は100億元を突破し、年間成長率は35%に達し、業界全体の成長率の2倍となっている。アクアリウム、爬虫類、鳥類などのニッチな需要が急増しており、カメ、ヘビ、オウムなどの非伝統的なペットが新たな注目を集めつつある。

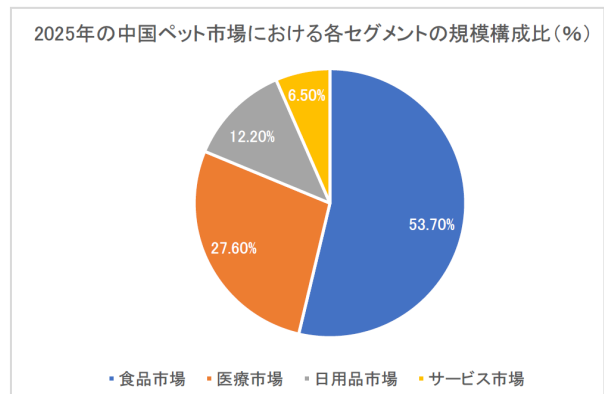
- ペットオーナーの若年化傾向が顕著

「90後(1990年代生まれ)」が依然として消費の主力であり、その割合は42.7%を占める。「00後(2000年代生まれ)」が26.3%、「80後(1980年代生まれ)」が24.5%とそれに続く。「00後」の急速な増加に伴い、「80前(1980年以前生まれ)」のペットオーナーの割合は10%未満にまで低下した。



- 食品は依然として中核的な分野

2025年、中国のペットフード市場規模は1,100億元を突破し、全体の53.7%を占める見込みである。主食、おやつ、健康食品の3分野が三本柱を形成しており、中でも健康食品市場の成長率は30%を超えている。医療市場のシェアは27.6%、用品およびサービス市場のシェアはそれぞれ12.2%と6.5%となっている。



- オンライン購入の割合は70%

オフラインではペットショップと動物病院が中心で、その割合はそれぞれ49.2%、40.4%となっている。今後の動向としては、オンラインのライブコマースが急速に成長している一方、

オフラインの販路は専門化やチェーン化へと移行しつつある。

細分化された市場：品質重視ときめ細やかなサービスへの進化

● 健康、外見、アフターサービスがペット選びの核心的な要素

ペットオーナーの76.6%が健康を最優先指標としており、47.8%が品種・外見および血統を重視し、33.2%が健康保証契約に関心を寄せている。これに対し、ペットの性格や販売者の評判への関心は二の次であり、ペットの入手先や取引の利便性への関心は比較的低い。これは、消費者の意思決定が「健康を最優先とし、外見を補助とし、アフターサービスで下支えする」という複合的な価値判断へと移行していることを示している。

● 生食の台頭傾向が顕著

犬の飼い主は生食やウェットフードへの嗜好が高まっており、猫の飼い主はオープン焼きフードや生食をより好む傾向にある。一方、その他のエキゾチックペットのフード選びは比較的複雑である。

生食を選ぶ際、78.6%の飼い主が最も重視するのは肉類の産地であり、70.8%が食材の鮮度に注目している。原材料では、家禽肉が88.7%を占めて首位となり、果物・野菜・食物繊維類の副原料に対する評価も高い。

おやつ分野では、インタラクティブタイプが75%を占めて主流となっており、機能性おやつの潜在力が際立っている。犬用おやつでは免疫・関節・皮膚の健康が特に重視され、猫用おやつでは毛玉の排出や口腔ケアが重視されている。

● ペット用品の機能化が進む傾向

犬用用品ではおもちゃやベッド・マットへの需要が堅調で、猫用用品では猫砂が94.2%の必須品として首位を占め、その中でも混合猫砂が45.8%で最も選ばれている。グルーミング製品では、機能性やほのかな香りのシャンプーがより好まれ、犬・猫用ボディソープのシェアは前年比で共に増加している。また、52.9%の猫飼い主が猫を連れて外出を試みるようになったことに伴い、リード選びは専門的な時代に入り、55.1%のペットオーナーが機能性を最優先の考慮事項としている。

● 対面診療が依然として主流

犬と猫の来院診療の割合はそれぞれ52.0%と39.6%に達しており、オンラインプラットフォームは主に病気情報の補足として利用されている。大都市では、エキゾチックアニマル専門の診療機関が登場している。疾患別では、犬の外耳道疾患と猫の胃腸炎の症例が増加している。

● 専門性と評判が店舗選びの鍵

ペットショップは依然としてトリミングや預かりサービスの第一選択肢であるが、出張サービスの割合が増加している。飼い主は専門的なサービスと清潔な環境をより重視するようになり、コストパフォーマンスと評判の重要度が高まっている。従来の「近場を選ぶ」という傾向の影響力はさらに弱まっている。

産業成長を牽引する4つの主要な原動力

● 人口構造の変化により、ペット飼育層の多様化と拡大が進んでいる。

都市化の進展、少子化および高齢化の深刻化により、独身若者や空巢高齢者の間で、情緒的な伴侶を求める強いニーズが喚起されている。2025年には、全国の65歳以上人口の割合が15.9%に達し、一人暮らしの若者の規模は拡大し続け、高齢者および若年層がペット飼育の主力となる。同時に、都市化率が67.89%に上昇するにつれ、都市部の常住人口におけるペット飼育の傾向がますます顕著になっている。

● 感情的なニーズの高まりにより、ペット飼育に対する認識が深まり、家族化が進んでいる。

ペットは従来の「伴侶動物」から「家族の一員」へと格上げされ、感情の拠り所となっている。80%以上の飼い主がペットを親しい家族の一員と見なしており、「擬人化」されたペット飼育の傾向が顕著である。約26%の飼い主がペットの記念撮影や服装選びを行い、11.9%が誕生日パーティーを開催している。「家族化」、「擬人化」の傾向が深まるにつれ、新世代の飼い主によるペット医療などの消費分野への支出意欲はさらに高まっていくだろう。

● 消費意識の変化が、ペット関連消費の質的向上と細分化を牽引している。

住民の一人当たり可処分所得の増加に伴い、ペットオーナーの消費行動は「生存の保障」から「生活の質の向上」へと移行している。高学歴・高所得層が食品の鮮度や安全性、医療サービスの専門性に対して厳しい要求を突きつけることで、業界の高級化が進んでいる。ペット関連消費はますます細分化が進み、年齢・体型・健康状態に応じたオーダーメイド製品が主流となり、成分と評判が重要な判断基準となっている。

● 政策と技術の活用が、業界の発展を規範化・高品質化へと導いている。

「ペット用飼料管理弁法」などの法規の制定により、業界は無秩序な成長から規範的な発展へと転換した。スマートハードウェア、バイオ医療、食品技術の分野で著しい進歩が見られ、AI健康首輪、ペット用新薬、ブロックチェーンによる食品トレーサビリティなどの製品が登場し、業界のサービスモデルを再構築している。

人口構造、感情的なニーズ、消費動向、そして技術革新の相乗効果により、中国のペット経済は質の高い発展へと加速している。ペットを「家族の一員」として捉える傾向が深まり、産業チェーンの高度化が進む中、この数兆元規模のブルーオーシャン市場には明るい未来が期待されることであろう。

AIがペットの健康を支え、スマートペットケアの新たなエコシステムを築く

| | | | | |
|----------|---|---------|---|-----|
| 社名 | 深圳市星聯未来科技有限公司 | 英語名 | SATELLAI | |
| 代表者 | 毛漢勇 | URL | https://satellai.com/ | |
| 所在地 | 深セン市南山区粤海街道高新区社区高新南一道006号TCL大厦A1007 | | | |
| 売上 (RMB) | - | 従業員 (人) | - | 創業年 |
| 登録資本金 | 16.6334万人民币元 | | | |
| サービス内容 | ウェアラブルスマートデバイスの製造・販売、スマートホーム機器の製造・販売、モバイル端末の製造・販売、IoT機器の製造・販売、ペットフードおよびペット用品の卸売・小売など。 | | | |

人々の生活水準の向上と感情消費の高度化に伴い、ペット経済は今まさに急成長を遂げる時代を迎えている。世界のペット経済は持続的な高成長を続けており、ペット領域のスマート化の波も急速に広がっている。

深セン市星聯未来科技有限公司(以下、「SATELLAI」)は2024年に、深センのイノベーションの沃野を拠点とし、華米科技(ZEPP Health)の元主要幹部によって設立された。深センの充実した電子製造産業チェーンとAI産業クラスターの強みを活かし、SATELLAIは技術研究開発および製品改良の体制を迅速に構築している。衛星測位、スマートウェアラブル、大規模AIモデルを深く融合させることに注力し、ペット向けの「デジタルツイン(Digital Twin)」モデルを確立しており、確固たる技術力、グローバルな視野、そして業界リソースを武器に、同社は技術開発から商用化への飛躍を迅速に成し遂げている。

人間向けスマートウェアラブル機器の成熟した技術をペット分野に応用し、マルチモーダルデータの融合とAIモデリングを通じて、ペットの健康状態、行動、感情を正確に把握・分析している。SATELLAIの製品ラインナップはスマート首輪や健康モニタリングシステムなど多岐にわたるハードウェアを網羅しており、データプラットフォームを通じて保険や医療などのエコシステムパートナーと連携することで、ペットの健康管理のスマート化と心のこもったサービスを推進している。

2026年1月、SATELLAIはCES(国際コンシューマー・エレクトロニクス・ショー)において、2つの主力製品を発表している。

一つは、全く新しいマルチモーダルペット健康ソフトウェアプラットフォーム「Petsense™ AI」。Petsense™ AIは、統一されたマルチモーダルペットデータモデルとして、生体認証の生データを実用的な健康インサイトに変換することができ、すべてのSATELLAIデバイスユーザーに対し、無料のソフトウェアアップデートとして提供されている。

もう一つは、次世代スマートウェアラブルハードウェア「SATELLAI Collar Go」。多機能かつ手頃な価格のスマートカラーであり、マルチモーダルセンサーを搭載し、ペットの行動、生理、環境データを包括的に収集可能。

Collar Goをはじめとする複数のデバイスから得られる多次元情報を統合することで、Petsense™ AIは、各ペットのために継続的に更新され、包括的に可視化されたデジタル健康記録を構築し、データ収集からインテリジェントな分析に至るまでの閉ループを実現することを目指している。

自社開発のAIペット健康モデル、マルチモーダルセンシングシステム、およびクラウドアルゴリズムを通じて、SATELLAIは「ペットを理解する」スマートエコシステムを構築している。ペットの運動状態、健康の傾向、行動特性を把握し、保険会社や動物病院と連携することで、データ駆動型の健康管理

ネットワークを形成し、すべてのペットが心のこもった個別のケアを受けられるようにしている。同社はすでに「ハードウェア+データ+サービス」というビジネスループを構築しており、スマートウェアラブルデバイスを通じてデータを収集し、AI分析と組み合わせることで、ユーザーに健康レポート、リスク警告、提携医療サービスの推奨を提供している。

世界のペット向けスマートハードウェアが概ね「位置情報とデータ表示」の段階にとどまっている中、SATELLAIはより長期的かつ体系的な方向へと進もうとしている。つまり、技術が単に「位置を把握する」だけでなく、「生命を理解する」ことを目指しているのである。

2025年春、SATELLAI CollarがAmazonなどのプラットフォームで発売され、発売から3ヶ月で売上高が数百万ドルを突破。Amazonの新商品ペット用首輪ランキングで首位を獲得し、従来のトップブランドを凌駕して市場シェアを急速に拡大させている。2026年4月現在、製品は米国、カナダ、英国、ドイツ、日本など20以上の国と地域で展開されており、海外売上高の割合は90%を超え、世界のAIペット用スマートハードウェア市場における業界トップとなっている。

SATELLAIは、華米科技の元中核チーム、堅牢なAI技術、そして爆発的な市場実績を武器に、トップクラスの投資機関から高い評価を得て、設立から1年以内に3回の資金調達を完了し、累計調達額は1億円を超えている。さらに2026年1月には、数千万人民元のシリーズA資金調達を完了。今回の資金調達は主に、ペットの健康・安全分野におけるマルチモーダルAI技術の継続的な研究開発、中核製品ラインナップのアップグレード、および海外市場のさらなる拡大に充てられる。

SATELLAIは今後も、「AIでペットの健康を守り、科学に基づいたペットケアをより簡単にする」という使命のもと、世界中のペットに対し、より正確で、包括的かつスマートな健康管理を提供している。AIと衛星技術を駆使して、すべてのペットオーナーの日常生活に真に役立つサービスを提供し、世界のペットヘルスケア分野において、中国のテクノロジーブランドとしての革新的な力を示し続けていくことであろう。



外資系企業のための深セン市の最新外資誘致政策

2025年12月、深セン市政府は「深セン市における外資の誘致・活用強化に関する実施方法」を発表しました。本政策は2026年1月1日から施行され、有効期間は3年間となります。

特に製造業・先端技術・バイオ医薬・現代サービス業などの分野において、質の高い外資を呼び込むために打ち出されたものであり、主に「資金支援」「優遇措置」「ビジネス環境の整備」という三つの柱から構成されています。

● 直接的な資金支援の内容

(1) 多国籍企業地域本部: 最大800万元

対象: 多国籍企業の地域本部(アジア太平洋本部、中国本部、事業部グローバル本部など)に認定された企業。

条件: 前年度の新規増加外資額が合計1,000万ドル以上。

※ 2025年から2027年までに認定された企業が対象となり、実際の新規増加外資額に基づき支給される。

(2) 外資系研究開発センター: 最大600万元

通常の外資系研究開発センター: 最大100万元。

多国籍企業のグローバル研究開発センター(かつ新規増加外資額1,000万ドル以上): 合計最大600万元。

※ 各区(エリア)が独自に上乗せ支援を行う場合もある。

(3) ハイテク企業の優遇

外資系企業であっても、国家・省・市のハイテク企業基準を満たせば、関連する奨励金を申請することが可能。外資系研究開発センターも、地元の科技計画プロジェクトに応募し、プロジェクトに対する特別経費を獲得できる。

● 開放される分野

(1) 製造業: 全面的に開放

深センが特に重視する「20+8」産業クラスター(先端設備製造、次世代情報技術、新材料、バイオ医薬、新能源、スマートコネクテッドカーなど)への投資を歓迎。

世界トップレベルの製造業企業には、本部・研究開発・生産な

唯来企業管理諮詢(深圳)有限公司
副總經理

姜 香花

日本・中国専門の進出・撤退案件のエキスパート。現在はクロスボーダーM&Aも手がけている。日本人、中国人の気持ちを理解したコンサルティングに定評。中国事業再編・M&Aサービス担当。



どの重要機能を深センに設置することを推奨。

(2) バイオ医薬: 先端分野の試行開放

条件を満たす外資企業は、海外で既に発売された細胞・遺伝子治療薬の臨床試験を深センで実施可能。

深センは粤港澳大湾区国際臨床試験センターの整備を進めていて、緊急医療需要の高い薬剤・医療機器を指定医療機関で使用することが可能。

(3) 金融・サービス業の開放拡大

外資による銀行カード決済業務の展開が可能。

商業養老保険・健康保険などの分野で開放を深化。

条件を満たす外資保険機構は、国内での保険機構への出資・設立が可能。

前海エリアでは、私募ファンド・ベンチャーキャピタル持分譲渡の試行を実施。

(4) その他の投資手段

外国投資家によるM&A、クロスボーダー人民元出資、株式出資、利益再投資などの方法を奨励していて、投資性公司(インベストメント・カンパニー)が深センに設立した企業も、外資系企業としての待遇を享受できる。

上記のような政策は大手外資企業の誘致に傾いているのではという声もあります。ただし、中小企業の場合、地域本部やグローバル研究開発センターの奨励金(1,000万ドル以上)はハードルが高いものの、各区の独自支援策はより低い基準で利用できる場合があります。

クロスボーダー投資の円滑化措置は、中小企業の財務コスト削減に有効であるという分析もあります。深センには多くの産業パークやイノベーションインキュベーターがあり、中小外資系企業の進出に適しているのも事実です。

なお、既に中国に投資している外資企業の場合、利益の再投資であっても、外資系企業としての待遇を受けられ、奨励金を申請できます。また、既存の拠点を地域本部やグローバル研究開発センターに格上げし、一時金を受け取ることも可能です。



深圳未来创新服务中心
MIRAI Innovation Center Shenzhen

深圳市南山区粤海街道海天二路 19 号盈峰中心ビル 2301
TEL:86-135-3089-3085
<https://micsz.jp/>